

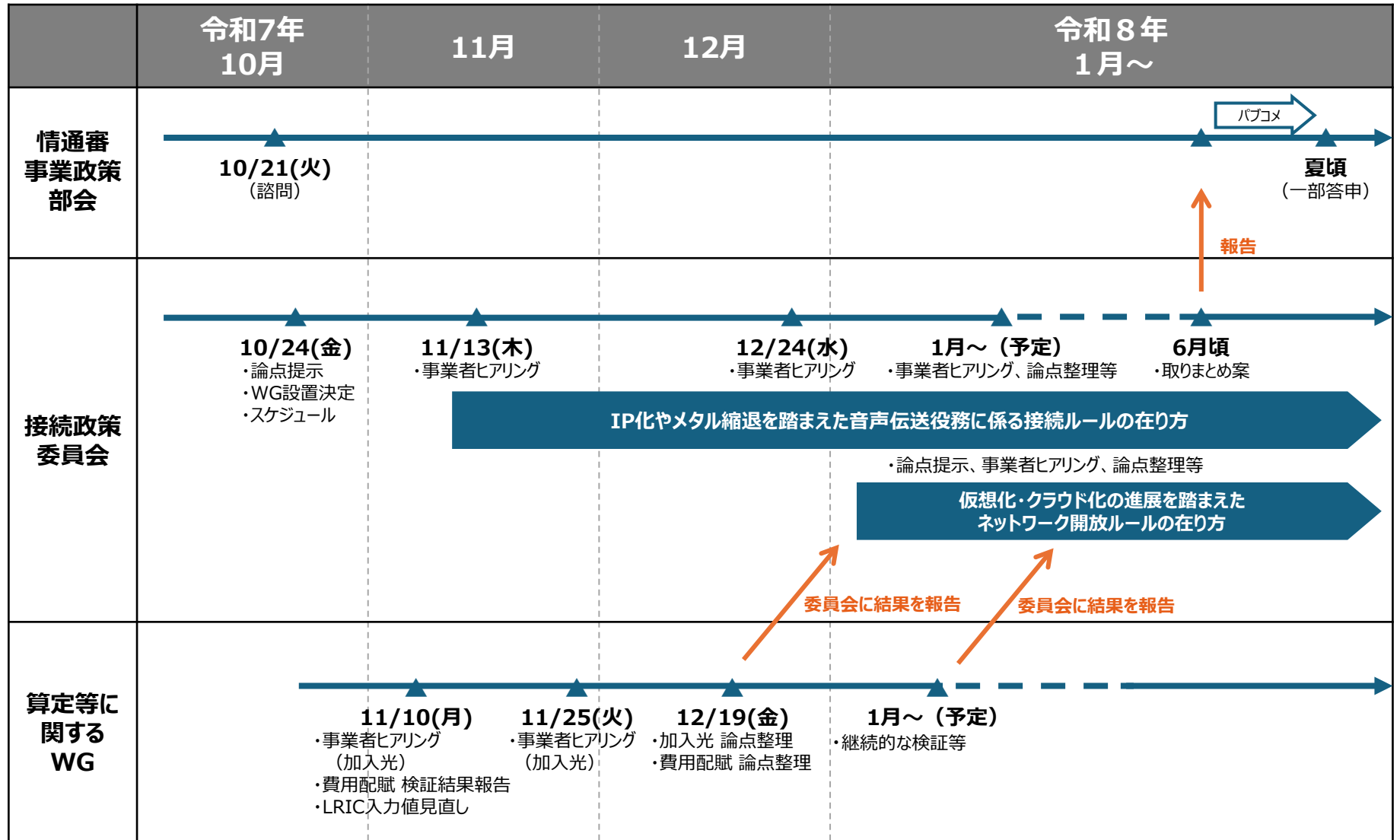


今後の進め方について

令和7年10月24日
事務局

今後のスケジュール（案）

1



IP化やメタル縮退を踏まえた音声伝送役務に係る接続ルールの在り方 関係事業者ヒアリング実施（案）①

- IP網への移行完了やメタル回線設備縮退等のネットワーク環境の変化を踏まえたメタルIP電話に係る接続ルールの在り方に関する論点について、以下のとおり、関係事業者からヒアリングを実施してはどうか。

■ ヒアリング項目（案）

論点1 加入電話の加入者が一定程度残る2035年頃までの間の接続料の算定方式

- メタル回線設備が縮退する見込みであることを踏まえ、引き続き、LRIC方式を接続料算定に適用するべきかどうか。

NTT東日本・西日本に対しては、以下の点について説明を求めている。

2025年9月に発表した「メタル回線から光回線・モバイル回線へのサービス移行」を前提とした、2035年までの次に掲げる項目。

- NTT東日本・西日本のメタルIP電話の契約数の予測
- LRIC方式で接続料を算定しているメタル回線収容機能及び一般中継系ルータ接続伝送機能に関して、実績原価方式で接続料を試算した結果
- 組合せ適用接続機能として算定した場合の接続料の試算結果

LRIC方式を廃止する意見に賛同する事業者に対しては、以下の点について説明を求めている。

- 直ちに廃止すべきか又はまずはLRICモデルの運用プロセスの簡素化を図るべきか。
- 廃止後の接続料の算定方式（実績原価方式、ビル&キープ方式等）はどうあるべきか。
- 廃止により事業運営にどのような影響を及ぼす可能性があるか。
- 事業運営への影響を踏まえてどのような措置（激変緩和措置等）が必要と考えるか。

論点2 「接続等に関し取得・負担すべき金額に関する裁定方針」（平成30年1月16日総務省策定。以下「裁定方針」という。）第3項における、有効と認められるデータ提供が行われない場合のLRIC方式の利用

- LRIC方式を廃止した場合、裁定方針第3項において、有効と認められるデータの提供が行われない場合には、例えばLRIC方式を用いることとしている点をどうするか。

論点3 その他

- その他、IP網への移行完了やメタル回線設備縮退等のネットワーク環境の変化を踏まえたメタルIP電話に係る接続ルールの在り方について検討すべき事項があるか。

IP化やメタル縮退を踏まえた音声伝送役務に係る接続ルールの在り方 関係事業者ヒアリング実施（案）②

- IP網への移行完了やそれに伴う事業者間の接続形態の変容、音声トラフィックの減少傾向等、メタル縮退計画の公表を契機にLRICモデルの廃止について検討を行うことを踏まえて、音声接続料の在り方に関する論点について、以下のとおり、関係事業者からヒアリングを実施してはどうか。

■ ヒアリング項目（案）

論点1 ビル&キープ方式の選択可能とする制度整備以後の音声サービスの現状

- IP網への移行後の音声サービスに係る契約数及び音声トラフィックの状況。
- 接続料の算定等に関する研究会第七次報告書を踏まえて、ビル&キープ方式の選択可能とする制度整備が実施されたが、その後のビル&キープ方式に関する検討状況。ビル&キープ方式を適用していない場合、その理由。

論点2 接続料の算定等に関する研究会第七次報告書において整理された議論を進めていくべき事項についてどう考えるか。

- 音声接続において、**事業者間協議では解決し得ない問題**（着信網の独占性に起因する着信接続料の高止まり、協議における有効なルールがない等）が存在するとの指摘についてどのように考えるか。
- ビル&キープ方式について挙げられた**メリット**（自網コストの効率化、事業者間の公平性、音声接続のコスト削減、参入障壁の軽減等）及び**デメリット**（小規模事業者の事業継続、競争への影響、コスト回収への影響等）についてどのように考えるか。
- **海外におけるビル&キープ方式**の導入に関する検討を踏まえてどのように考えるか。
- 対象とすべき**呼種・接続形態**、特に、**着信課金、国際電話等の片務的な呼種**についてどのように考えるか。
- **利用者料金に及ぼす効果**についてどのように考えるか。
- 仮に原則化を行う場合、**我が国の接続制度における位置付け**についてどのように考えるか。
- 仮に原則化を行う場合、**影響緩和に関する措置**（経過措置等）や、**導入時期**についてどのように考えるか。

論点3 その他

- その他検討すべき事項があるか（例：仮に原則化を行う場合、モバイル接続料における音声／データの費用配賦の簡素化が考えられるか）。